

新しい出会いと学び

帯広シニアサークル「ふたば」

同世代との交流や学習の機会を通じて、シニア・セカンドライフ（第二の人生）を、さらに充実しませんか。

問い合わせ・申し込み とかちプラザ(〒080-0014 西4条南13丁目1、☎22・7890、FAX22・5955)、生涯学習課(市庁舎8階、☎65・4192)

帯広シニアサークル「ふたば」は、市内在住の人を対象に、「健康」「仲間づくり」「学習成果を社会で活かす」ことをキーワードに、学びの場を提供しています。

2年間にわたって仲間と共に学習し、シニア・セカンドライフで、輝く自分を探してみませんか。

講演会・体験講座などさまざまな学習内容

4月から2年間、学年別、選択コース別に学ぶほか、1・2年生合同学習会があります。

学習内容は、郷土の歴史や自然、防災などの講演会、工場見学や庭園散策など十勝管内の施設へのバ



クリスマス会の様子

無料体験会を開催

ピアニストの長尾崇人氏によるミニコンサート。簡単な運動講座と身近なものを使用した防災グッズ作りも行います。気軽にご参加ください。

日時：2月27日(水)、10時～11時30分
場所：とかちプラザ1階 大集会室(西4南13)



昨年度の体験会の様子

対象 市内在住の人

学習期間 平成31年4月から2年間

学習日時 月3回程度、平日(曜日は不定期)の午前中、2時間程度

費用 年会費1000円(別途施設見学料など4000円程度)

定員 先着150人(「ふたば」への新規入会者を優先)

ふたばのクラブ活動

学習活動のほかに、書道クラブとダンスクラブがあります。初めてでも楽しく参加でき、活動の成果はプラザまつりなどで発表しています。会員による自主運営で、加入は任意です。

2年間の学習修了後はどうなるの?

2年間の学習修了後は、自主学習グループ「帯広市わかば会」で活動することができます。さまざまな学習活動を行い、生涯学習を実践するとともに、会員同士の親睦を深め、社会貢献を目指し、地域との交流を図ることを目的としています。

募集は3月15日まで

平成31年度の募集要項は、とかちプラザ・総合案内(市庁舎1階)・各コミセン・福祉センターで配付しています。

2月1日(金)～3月31日(日)までに、募集要項内の申込書に必要事項を記入の上、直接またはファックスか郵送で、とかちプラザ2階事務局へ申し込みください。

市長コラム

夢かなうまち おびひろ

非日常とモラル

帯広市長 米沢 則寿



まえ、冬期間に一斉にライフラインや物流が停止することを想定し、各避難所の段ボールベッドやジェットヒーター、米などの備蓄量を増やしました。皆さんも、それぞれが必要かを考え、自宅や会社で新たに備蓄されたものがあるかもしれない。こうした備えは、防災直後の混乱を最小限に抑えるために、大変重要です。しかし、甚大な被害が発生した場合、その影響が収束するまでには長い時間を要するため、限界があることも事実です。食料が全員に行き渡らないので、配らずにいたら傷んでしまった。優先的に物資を配られた高齢者がみんなから妬まれた。大都市の避難所で、実際に起きたといわれていることです。

災害は、時には私たちの生活を支えるさまざまなシステムを一挙に機能停止に陥らせ、当たり前と思われている常識やルール、価値観さえも揺らぐような「非日常」をつくりだします。自然災害に被害者はいません。皆、被害者なのですが、根拠のない中傷や不信感がまん延しがちです。

どんな状況でも、人々が互いを思いやり、信じ合うことができる地域であれば、助け合いながら乗り越えていける。停電時、皆さんが落ち着いて行動し、非日常でのルールを受け入れ、知恵を出し合いながら協力している様子を伺って、この地域の持つ「モラル」を心強く感じました。

2018年に生まれた女の子の名前には、「結」の漢字が使われたものが3位までを占めたそうです。自然災害が相次ぐ中、人と人との結び付きの大切さが見直されているのかもしれない。

昨年9月6日午前3時25分、北海道全域が大規模停電「ブラックアウト」に見舞われました。いつもの生活が一変したとき、皆さんはどのような行動を取られたでしょうか。当時、停電により、信号機の停止や交通機関の運行障害が発生したほか、スーパーなどが営業休止し、食料や情報の確保も困難になるなど、市民生活に大きな混乱が生じました。

一方で、店舗などにできた行列には、冷静さを失わず整然と順番を待っている人たちの姿がありました。目前で品物が売り切れ、一緒に並んでいた見知らずの人が、自宅を歩き来して、お互いに必要なものを交換したという話や、ある携帯電話の充電場所では、「1人、1台、20分」というルールが自然とつくられたという話も伺いました。